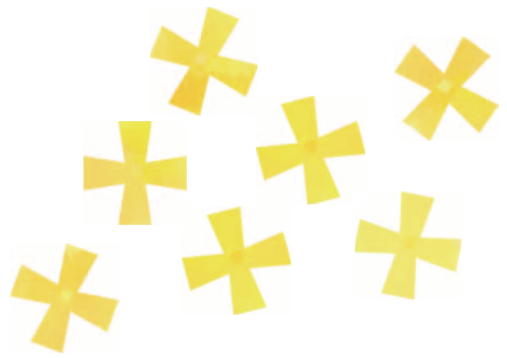
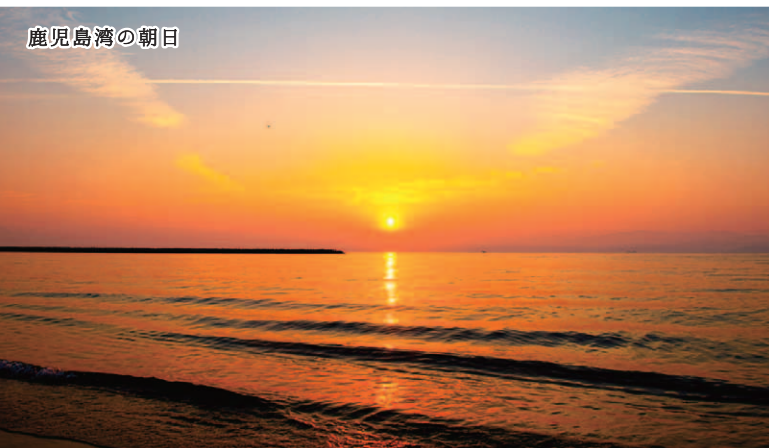


菜の花

NHO IBUSUKI MEDICAL CENTER



No. 57
令和6年1月



鹿児島湾の朝日



青隆寺の紅葉



指宿市の街並み



竜宮神社

当院のロゴマークは、指宿市が誇る「菜の花」をモチーフにしています。

たくさんの黄色い円は花の部分を表しており、菜の花は小さな花が集まって1つの花を形成しているというように、病院のスタッフ1人ひとりが集まって、病院という組織があるのだということを表現しています。

緑の弧は菜の花の葉と、病院（花の部分）には新しい風が常に舞い込み、また病院が地域に新しい風を送り出しているという「風」のイメージを示しています。



contents

- P.2 “2024年 新年のご挨拶”
- P.3-4 第10回指宿医療センター市民公開講座
- P.5-6 第77回国立病院総合医学会が開催されました
- P.7 ソフトバレーボール大会を通して
- P.7 4年振りの指宿温泉祭に踊り連で参加しました。
- P.8 連携先医療機関紹介 池田診療所
- P.9 指宿 菜の花通信
- P.10 外来診療担当医一覧

理念

患者さまにやさしく、
地域に信頼される
良質な医療の提供をめざします。

運営方針

- 1 がん診療の治療の向上をめざします。
- 2 成育医療の充実をめざします。
- 3 救急医療の充実をめざします。
- 4 地域医療機関との連携を図り、説明と同意に基づいた安全で質の高い医療をめざします。



” 2024年 新年のご挨拶 “



院長
鹿島 克郎

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

今年も指宿医療センターが地域中核病院としての役割を果たせるよう精進しますので、ご支援ご協力を宜しくお願い致します。

昨年は5月以降ポストコロナ体制となり、例年通りの行事を行うことができました。

6月、職員合同宿泊研修、8月、南九州消防組合と暑気払い、9月、指宿ハンヤ踊りに参加、10月、広島での国立病院総合医学会で当院職員9名が発表。

11月、市民公開講座には「高齢社会で長生きするために」のテーマで222名の参加がありました。また、11月の職員合同ソフトバレーボール大会は大盛況で久しぶりに気持ちの良い汗をかきました。

地域医療を担う上で職員の団結は必要不可欠です。また、医療安全管理チーム、感染症対策チーム、栄養管理・褥瘡対策チームなど多職種連携も欠かせません。2024年度は医師の働き方改革が本格的に始まります。全職員が健康で生き生きと働けるように職場環境を見直すことが必要ですが、一方でひとり一人が仕事とプライベートのオン・オフを切り替えることも大切です。指宿は温泉だけでなく海や山のレジャーも充実しています。指宿ライフを思う存分楽しみかつ仕事にも集中して取り組む。私たちが目指すライフスタイルです。

昨年12月、指宿医師会の先生方と合同忘年会を4年ぶりに開催しました。私は指宿に赴任して14年目を迎え、医師会の先生方と交流を深めることができましたが、鹿児島大学から派遣される若い先生方は、顔の見える関係を築く機会がありませんでしたので今回の合同忘年会は良い機会になりました。

指宿医療センターでは地域で出動する救急車の36%～38%を受け入れています。最近、応需率が90%を切ってきたため断りケースをチェックしています。当院が地域で求められている医療は何かを常に考え、その実現のために弛まぬ努力が必要です。そして今年には地域医療機関との医療連携が更に進展するよう努めて参ります。引き続きご指導の程、宜しくお願い致します。



第10回指宿医療センター市民公開講座

令和5年11月3日(金)、指宿市民会館 大ホールにおきまして、第10回指宿医療センター市民公開講座「高齢社会で長生きするために～身近な病気の予防と対策～」が開催されました。当日は222名の市民の皆様にご来場いただきました。

講演1 「骨の健康を守るには」

1

講師：指宿医療センター 整形外科医師 特別診療顧問 織田 弘美



骨はコラーゲンを主成分とする骨基質とリン酸カルシウム(骨塩)で構成され、破骨細胞による骨吸収と骨芽細胞による骨形成を繰り返している。荷重がかかる部分に多く形成され、荷重が少ない部分では吸収される。骨芽細胞は骨基質を分泌し、これに骨塩が沈着して強い骨ができる。骨塩沈着には、皮膚で紫外線を浴びて形成されたビタミンDが肝臓、腎臓で活性化される必要がある。骨強度は骨密度(骨塩量)と骨質によって決まり、骨質の維持にはコラーゲンの善玉架橋が重要である。

骨粗鬆症は骨量が減少して骨がもろくなる疾患で特徴的な自覚症状はない。早期発見のためには、猫背や身長低下の有無、インターネットを利用した骨折危険性予測ツール(FRAX)が役立つ。健康なら折れない程度の外力で起こる骨折(脆弱性骨折)があると骨粗鬆症と診断され、ない場合は骨密度が若年成人平均値の70%未満を骨粗鬆症、70~80%を骨量減少(軽度の骨粗鬆症)と診断する。治療は薬物療法が基本になるが運動療法、装具療法、骨折予防器具の使用も行われている。

骨の健康を守るためには、タンパク質、カルシウム、ビタミンDを十分に摂取し、外に出て適度な運動を行い、ビタミンD活性化を阻害する肝、腎の疾患やコラーゲンの善玉架橋を阻害する生活習慣病の治療を行うと共に、骨粗鬆症の早期発見に努めることが大切である。



講演2 「骨のお薬の飲み方について」

2

講師：指宿医療センター 薬剤科 調剤主任 松島 静香



骨粗しょう症の治療で使用される薬は、骨を壊す働き(骨吸収)を抑える薬、骨を作る働き(骨形成)を助ける薬、骨吸収と骨形成のバランスを整える薬の大きく3つに分けることができます。

骨吸収を抑える薬のうち使用頻度の高い飲み薬の、ビスホスホネート製剤は、起床時に飲む必要がある薬です。飲んだ後30分は水以外の飲食を避け、横にならないようにする必要があります。その理由としては空腹時に内服することで薬の吸収が良くなることと胃に薬を流し込む必要があるためです。また、顎の骨を溶かす副作用があるため、定期的な歯科受診を行い口の中を清潔に保つ必要があります。

骨吸収と骨形成のバランスを整える薬には、サプリメントなどと重複する成分もあるため過剰摂取に注意が必要になります。代表的な薬としては活性型ビタミンD₃製剤があり、腸でのカルシウムの吸収を助けてくれる働きがあります。注意すべき点としてはカルシウムが増えすぎているか定期的に血液検査をする必要があります。

講演 「おいしく食べてロコモ対策」

3

講師：指宿医療センター 栄養管理室長 高城 佳奈子



第10回市民公開講座のテーマであります「高齢社会で長生きするために」について、管理栄養士の立場からはロコモ対策の食事について講演させていただきました。加齢に伴い肥満や糖尿病、脂質異常症など過栄養に関する疾患も問題になりますが、偏った食生活により筋肉量・骨密度の低下をきたし、寝たきりのリスクも危惧されます。「この食品を食べたら良い!」という話を期待される場合も多いのですが、今回は食事の基本である「バランス良い食事」の重要性についてお話させていただきました。当たり前と思っても実行して継続する難しさを私たちも感じております。ある特定の食品のみを摂るのではなく、「さあ、にぎやかにいただく」の合言葉のように、いろいろな食品をまんべんなく摂ることの大切さと、バランス良い食事=おいしい食事ということをお伝えできたのではないかと思います。

今後も皆様がいままで元気に過ごして頂けるよう、栄養管理でサポートしていきたいと思っております。

※「**さあ**、**にぎ** **やか** (に) **いた** **だ** **く**」
魚油 **肉** **牛乳・乳製品** **野菜** **海藻** **芋** **卵** **大豆** **果物**

講演 「ロコモティブシンドロームを予防しよう」

4

講師：指宿医療センター リハビリテーション科 作業療法士 松本 洋幸



今回私はリハビリスタッフの視点からロコモティブシンドローム（以下：ロコモ）の予防についてお話をさせていただきました。

ロコモとは関節、筋、骨などの運動器に機能障害が起こり、立つ、歩くなどの移動能力が低下した状態を指します。運動器に機能障害が起こる要因は多様であり、その一つに加齢が上げられています。超高齢社会を迎えた現代の日本においては身近な問題になると考えます。実際、今回の講座でお話したロコモチェックでは「片足立ちで靴下がはけない」「青信号の間に横断歩道を渡り切れない」など計7個の身近な症状から1つでも該当すればロコモの疑いがあることを説明させていただいたところ、聴講者の方々からは身に覚えがあるようで驚きの感想を持たれておりました。

日頃のリハビリテーション業務を通して感じることの一つに、ご高齢の患者様の中には同年代の方に比べ回復が早い方がいらっしゃいます。生活習慣について話をうかがうと日頃から運動習慣がある、または過去に運動経験のある方が多く、リハビリ運動を楽しみながら取り組んでいらっしゃいました。そのような方は退院への目標も明確で入院中も活動的に過ごされている印象があります。おそらく日頃の運動習慣により基礎体力がついており、リハビリ運動も苦手意識なく意欲的に取り組まれるので結果的に回復が早くなるのだと感じました。このことから日頃より健康運動、体操、趣味活動などの生活習慣を持つことが病気になりにくい、または病気になっても回復が早い身体作りへと繋がり、超高齢社会でも健康的に長生きできるポイントになるのではないかと感じました。

今回、皆様と一緒にロコモ予防について考えることができ大変有意義な時間を過ごすことができました。大変お忙しい時間のなか貴重な体験の機会をいただきありがとうございました。



第 77 回 国立病院総合医学会が開催されました

『未来へ向かって～日本の医療を支える国立病院機構～』をテーマに令和5年10月20日(金)・21日(土)に広島県で第77回国立病院総合医学会が開催されました。

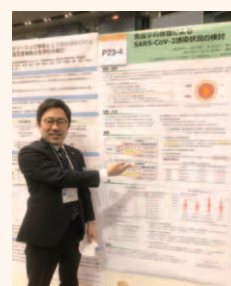
当院からは9名が発表いたしましたので、紹介いたします。



第 77 回国立病院総合医学会に参加して

研究検査科 生理学主任 迫田 真明

第77回国立病院総合医学会にて、一般演題(ポスター形式)を発表しました。演題名は「免疫学的検査によるSARS-CoV-2感染状況に関する検討」とし、当院職員を対象として実施したN抗体検査の結果について報告しました。新型コロナウイルス感染症においては、無症状感染者の存在から全ての感染者を把握することは困難であるとされていますが、N抗体検査により感染の既往が分かり、感染状況を確認することができます。学会では、検討結果について様々なご意見を頂戴し、追加の検討事項について学びを深める場となりました。最後に、検討にご参加いただいた当院職員の皆様、検体採取にご協力いただいた看護部の皆様に深く感謝申し上げます。



第 77 回国立病院総合医学会に参加して

放射線科 RI 検査主任 永谷 大輔

第77回国立病院総合医学会で昨年度に引き続き、「心筋血流シンチ検査で虚血所見を認め、冠動脈造影検査で有意狭窄病変を認めなかった症例の検討-再度解析を行った結果-」についてポスターにて発表を行いました。同じ分野で発表されている方も多く、いろいろ学ぶことができました。発表で学んだことや課題を今後の業務に活かしていきたいと思えます。ご協力をいただいた循環器内科及び放射線科の皆様方に感謝申し上げます。



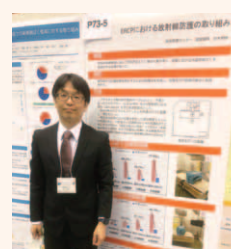
第 77 回国立病院総合医学会に参加して

撮影透視主任 白木 利明

第77回国立病院総合医学会に「ERCPにおける放射線防護の取り組み」という内容でポスター発表を行いました。久しぶりのに現地開催の学会参加となりいい刺激となりました。

水晶体の被ばくの管理に関しては同じポスターセッション内でも多く語られており、その中で様々な新しい視点やアイデアを得ることができました。

放射線を使用した検査に従事する人の被ばくをどのように管理し、低減を行っていくか今後さらに学び日常業務に活かしていこうと思えます。



第 77 回国立病院総合医学会に参加して

言語聴覚士 百武 理子

私は今回、地域歯科との連携と患者様の口腔環境改善に関して報告をしました。

今回の学会は、私にとって初めての国病学会発表でした。また、ポスター形式での発表も初めてであったため、内容の伝え方やポスターのレイアウトなど、様々な方のご助言を頂きながら当日を迎えました。

本番は、様々な職種の方に聴講頂き、連携の具体的方法やその際の苦勞、工夫について掘り下げて質問頂きました。私自身、大変勉強になり、またこの連携活動のありがたさを実感致しました。

今後も、この研究を進め、より入院患者様や指宿地区の皆様のためになる口腔ケア活動を進めていきたいと思えます。



第 77 回国立病院総合医学会に参加して

理学療法士 操 強志

10月20・21日に広島県で開催された、第77回国立病院総合医学会に参加しました。

昨年に引き続き今回も現地開催となりました。会場は全国の国立病院機構スタッフや協賛企業で賑わっており、改めて国立病院機構の組織の大きさを実感しました。

今回、私は「急性心筋梗塞患者での外来心臓リハビリテーション継続による脂質への影響」という演題でポスター発表を行いました。発表資料を作成する過程で、当院での外来心臓リハビリの効果や今後の課題が見えてきました。今後の業務に活かしていきたいと思います。また、他施設の研究発表や取り組みも聴講することができ、学び多い学会となりました。学会参加にあたりご協力頂いた患者様、スタッフの皆様に感謝申し上げます。

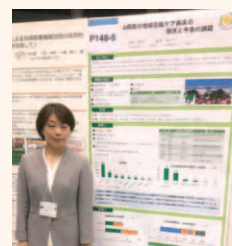


第 77 回国立病院総合医学会に参加して

2 病棟 看護師長 深水 晶子

令和5年度国立病院総合医学会にて、令和元年から令和4年度の4年間における地域包括ケア病床の利用状況を分析し、今後の課題についてポスターで発表を行いました。

入床した患者のなかで、主病名としては心不全の患者が多いことがわかりました。心不全など慢性疾患に対する栄養指導、服薬指導、運動療法、生活指導の重要性を再認識する結果となりました。地域包括ケア病床における課題として、多職種と連携しながら自宅退院に向けた支援を充実させることだと考えます。取り組みを継続し、患者の生活や思いを支えていけるよう取り組んでいきたいと思っています。



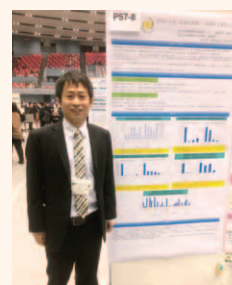
第 77 回国立病院総合医学会に参加して

薬剤科長 谷口 潤

総合医学会に参加し「医薬品欠損に影響する要因分析」という演題で、ポスター発表をさせて頂きました。学会ではディスカッションの場を通して、NHO 職員の活気ある様子を目の当たりにし、今後への活力を得ることができました。また、コロナの影響により久しぶりの対面学会で、緊張感や臨場感を心地よく感じることができました。さらに、学会会場近くの原爆ドームを訪れたり、広島の食文化を堪能することもできて、充実した学会参加となりました。

今後は、他の職員にも同様の経験してもらえよう、また指宿医療センターの学術活動がより活発になるよう、尽力したいと考えております。

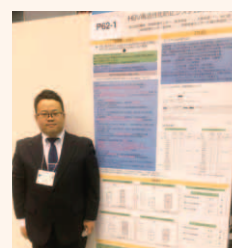
最後に、発表するに当たり、ご指導とご協力頂きました皆様に心より感謝申し上げます。



第 77 回国立病院総合医学会に参加して

薬剤師 梅本 啓史

この度、「HBV 再活性化防止システムの再構築」と題してポスター発表させて頂きました。当院では、これまで B 型肝炎再活性化に対する対策が十分とは言える状況では無く、肝臓内科医師と協議し、システムの再構築を実施しました。また運用を開始するにあたり、医局会で主旨を説明し医師の了承得て対策基準を統一し、B 型肝炎再活性化のリスク薬剤を使用する入院外来全ての患者をスクリーニング・モニタリング出来ているか確認し、必要時には医師へ検査依頼を行い、検査を実施して頂きました。再構築した結果システムの有効性を示す事が出来ました。今後も引き続き、安全な薬物治療の提供に寄与出来るよう努めていきたいと思っています。



第 77 回国立病院総合医学会に参加して

経営企画係長 江良 真弥

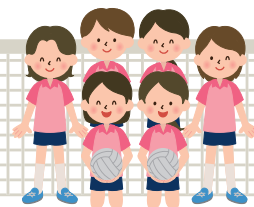
国立病院総合医学会で「指宿医療センターの電気料金契約の変遷と今後について」というテーマでポスター発表の機会をいただきました。全国的に問題となっている電気料金についてのテーマということもあり、多くの方にお声かけいただき意見交換をすることができました。また、初めての集合型学会に参加し、事務の分野だけでなく多施設・他職種の取り組みについて聴講し、学ぶことの多い学会となりました。

今回学んだことを生かして今後もチーム医療の一員として患者様の支援に努めて参ります。



ソフトバレーボール大会を通して

算定・病歴係 水口 龍之介



今年の院内レクリエーションは、部署別対抗のソフトバレー大会を行いました。ソフトバレー大会が初めてということもあり、ルール作成や景品、チーム編成について戸惑う事も多々ありました。大会を実施する直前までうまくいかどうか不安な気持ちでいっぱいでしたが、いざ試合が始まるとチーム一丸となって勝利を目指していたり、時には他部署から助っ人を引っ張り出して楽しそうにバレーをしたりする光景がとても印象に残りました。特に3病棟とリハ・放射線の連合チームの決勝戦は、最後までどちらが勝つか分からず、見ている側も手に汗握るような試合展開でした。3病棟が優勝し、結果的に大盛り上がりした形でレクリエーションを終わらせることができましたが、その中で課題も見つかりましたので来年実施する際には、皆さんが今年以上に楽しめるようなレクリエーションにしたいと思います。



4年振りの指宿温泉祭に 踊り連で参加しました。

保育士 秦 裕子



今年の指宿温泉祭は、コロナの影響で4年振りの開催となりました。令和5年9月23日(土)に当院からは鹿島院長先生をはじめ、看護師、保育士等総勢40名が参加いたしました。皆さん仕事の合間に振り付けを練習して限られた練習時間の中で本番に臨みました。



当日、私たち指宿医療センターの踊り連は赤い法被に身を包み指宿駅前をスタートしました。30分間踊り続けることを知らなかった私はそのハードさに驚きました。

しかし周りの方々が誰一人として音を上げることなく踊り続けてらっしゃる姿を拝見し、つい弱音を吐いてしまいそうな自分を鼓舞しながら30分×2回を踊り続けることができました。達成感と心地よい疲労感に包まれました。参加された皆様、本当にお疲れ様でした。

是非来年も参加させて頂きたいと思っております。ありがとうございました。



連携先
医療機関紹介

医療法人開南 池田診療所



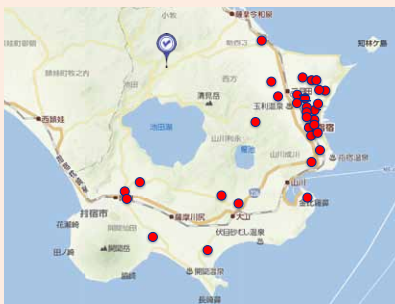
医師 院長 宮田 敬博

診療科目 内科、外科、小児科



診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
08:00 ~ 12:00	●	●	●	●	●	▲	/
14:00 ~ 18:00	●	●	●	●	●	▲	/

休診 日曜日・祝日 (▲土曜日は8:00 ~ 15:00)



📍 当院 (池田診療所) ● 他の医療機関

当院は元々、指宿市の国民健康保険直営診療所であり、そこに私の父が昭和40年から赴任しました。平成2年に火災で診療所が全焼してしまい、その後個人の診療所として再出発することとなりました。平成18年に私が父の後を継ぎ、現在に至っています。旧指宿市、そして合併した開間・山川地域を含めても指宿市北部にポツンとある診療所であり、半径7kmほどの中に他に医療機関がないという立地にあります。そのため、地域住民の方々の健康管理と安心のために担う責任は大きいと感じています。

診療科は内科・外科・小児科としていますが、それだけに限らず何かあったらとりあえず相談してもらい、必要に応じて専門医へ紹介するのが、当院の役割と考えています。そのため、他の医療機関との連携が重要であり、診察と自分の勘だけに頼って紹介することも多いのですが、指宿医療センター始め指宿医師会の先生方にいつも快く引き受けていただき、大変助かっています。

小さな診療所ですので、医療設備も限られているのですが、指宿医療センターの連携医療機関として連携ボックスという仕組みを作っています。当院のパソコンからCTやMRIの予約をし、検査後その画像や放射線科の先生に読んでいただいたレポートをパソコン上で確認することが出来るようになっていました。また医療機器共同利用として撮影した画像だけ送ってもらい、まるで当院の検査機器として利用することも出来ます。このように最新の医療機器を利用させていただけるのも、非常に助かっています。

今回のコロナ禍での対応などを見ても、指宿は医師会や市行政・保健所・商工会・観光業などの連携が取れています。それは代々多くの先生方の努力によって培われたものだと思います。その一員として、これからも他の医療機関と連携しながら、池田周辺の住民の方々の健康管理と安心に繋がるよう努力していきたいと思ひます。

特に指宿医療センターの皆さんには、今後もお世話になることが多いと思ひます。引き続きよろしくお願ひいたします。



田舎医者の流儀 (218)・・・計画的陳腐化



「1920年代のことだった。アメリカのゼネラル・エレクトリック社を中心とする電球メーカーはカルテルを組み、平均で約2500時間だった白熱電球の寿命を1000時間以下に短縮した。効果は抜群で、売上げと利益は急増した。今でもその伝統は引き継がれ、メーカーは冷蔵庫、洗濯機、電子レンジといった家電製品の平均寿命が7年以下と認めている。壊れるのは、システム全体が故障するからではなく、内蔵された小さな電気部品が壊れるからだ。それらは容易にかつ低コストで、長持ちするように設計できるはずだが、そうした部品の修理費用は法外に高かつき、機器全体を買い替えるのとそれほど変わらない。多くの場合、修理できないように設計されている」と言う。

現在、わたしたちが毎日使っているハイテク機器についても同じことが言えるそうだ。ハイテク企業は2010年から2019年までに、130億台のスマートフォンを販売した。現在使用されているのは、そのうちの30億台ほどだ。つまり過去10年間で、100億台のスマートフォンが廃棄されたことになる。加えてデスクトップ、タブレット、それに大量の電子機器が、計画的陳腐化の原則に沿って生産されている。

家を作って10年位経った頃、新調した冷蔵庫、洗濯機などが次々故障して買い替えを余儀なくされた。「計画的陳腐化」が我々の生活に深く入り込んでいる。電化製品に限ったことではない。数回履いただけで破れるナイロン製のストッキング、家具などもそのように設計されているという。企業はそこまでして「儲け」を維持している、これでは資源がいくらあっても足りない。

国連事務総長のグテーレス事務総長は、7月が人類史上最も暑い月となることを裏付ける公式データが発表されたことを受けて、「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と強い危機感を表明した。しかし、世界各国の指導者たちの反応はにぶいものだった。温暖化に最も大きな責任を持つ先進国の指導者たちはこの問題に真剣に向き合おうとしていない。

資源を浪費し、環境悪化の原因の一つになっている「計画的陳腐化」などと言う悪手を即刻辞めるべきだ。技術的には「アップグレードできて長持ちするデバイス」を作れないわけではなく、作れるはずなのだが、企業は儲けを優先し、その開発を抑制している。

地球温暖化を抑制のために、今すぐにでも出来ることをやらなくては後世に豊かな地球を残すことは出来ない。強い危機感が必要だ。

(参考文献：資本主義の次に来る世界 ジョイソン・ヒッケル著)

指宿医療センターHP 菜の花通信

<https://ibusuki.hosp.go.jp/topic/nanohana-tweet/>



外来診療担当医一覧

令和6年1月1日現在

診療科等		月	火	水	木	金	備 考
循環器内科	午前	鹿 島	吉 重	鹿 島 園	大 川 井 畑	鹿 吉 島 重	
総合診療内科	午前	大 井 花田(血液内科)	花 田	中 村	花 田	中 村	
消化器内科	午前	羽 田	(休 診)	小 川	千 堂	羽 田	
肝臓内科	午前		大 重		大 重		
小 児 科	午前	荒 武	田 邊	田 邊	関	田 邊	午前診療：8時30分～11時 午後診療：14時～16時 予防接種 (毎週月曜・火曜・木曜) 受付14時(要予約) 一ヶ月検診 (月・木) 受付13時(要予約) 3～4・7～8・9～11ヶ月・1歳児健診(火曜) 受付13時45分(要予約)
	午後	外来	荒 武	関	荒 武	関	
		予防接種 健診	田 邊	関	田 邊	関	
外 科	午前	(手術日)	宮 蘭 迫 大	宮 蘭 迫 大	(手術日)	(手術日)	
泌尿器科	午前	栞 木	(手術日)	栞 木	栞 木 (再診のみ)	栞 木	
腎臓内科	午前	大 保				外部医師	17番診察室にて診察します。 10:00～(要予約)
産婦人科	午前	鮫 島 塚 大	大 竹 塚 歳	(手術日)	鮫 竹 島 塚 歳	鮫 島 塚 大	1ヶ月健診 (月・木曜日:要予約) 2週間健診 (月・火・木・金:要予約) 午後診療受付 (水・金曜日以外) 13時30分～15時(再診のみ) 母乳外来 (毎週火・木曜日) 母親学級 (毎月第2・3水曜日)
	午後	鮫 島 塚 大	大 竹 塚 歳 助産師 母乳外来	助産師 母親学級	鮫 竹 島 塚 歳 助産師 母乳外来	(手術日)	
眼 科	午前	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	尾 辻 塚 鬼	月曜・火曜・水曜は午後から手術のため受付は午前10時までとなります。
	午後	(手術日)	(手術日)	(手術日)	(特殊外来)	(特殊外来)	木曜・金曜の午後は特殊外来(視野検査、レーザー治療、造影検査、硝子体注射など)
専門外来	午前	呼吸器内科	小児外科		脳神経外科		呼吸器内科 毎週月曜日 予約制 呼吸器外科 毎月第2・4木曜日 (14時～16時) 予約制 小児循環器 毎週月・木曜日 (14時・15時・16時) 要予約 ※毎週火は16時のみ要予約
	午後	呼吸器内科 小児循環器	小児外科 小児循環器	もの忘れ 外来	小児循環器 呼吸器外科 脳神経外科		小児外科 毎月第1・3火曜日 (9時45分～14時30分) 要予約 もの忘れ外来 第2・第4水曜日 (14時～16時) 要予約 脳神経外科 毎週木曜日 (9時～16時)
内 視 鏡 検 査		千 堂 川 小	羽 田 堂 川 小	羽 田 堂 川 小	羽 田 井 藤	赤 崎 堂 川 小	第2・第4木曜日 藤井
整形外科	午前			織 田		織 田	水曜日・金曜日 9時～17時 受付:(織田先生) 9時～11時・14時～15時30分 鹿大医師(水)・(金) 午後 受付:13時～15時30分
	午後			織田・鹿大医師		織田・鹿大医師	



JRの場合

JR指宿枕崎線に乗車頂き、指宿駅で下車して下さい。
指宿駅から山川行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」(約10分)で下車して下さい。
当院の正面玄関前に停車します。

バスの場合

JR鹿児島中央駅前(鹿児島市)から山川棧橋行バス(鹿児島交通)にて「指宿医療センター前バス停」で下車して下さい。当院の正面玄関前に停車します。

自動車の場合

鹿児島市からは、産業道路を進んで国道226号線を山川方面へ進んで下さい。
指宿医療センターは国道沿いにあります。

- 受付時間 午前8時20分～午前11時00分
- 診療時間 午前8時30分～午後17時15分
- 休診日 土・日・祝祭日・年末年始 ※急患の方は随時受付いたします。
- 電話番号 0993-22-2231

発 行：独立行政法人国立病院機構 指宿医療センター
〒891-0498 鹿児島県指宿市十二町4145番地
T E L : 0993-22-2231 (代表)
F A X : 0993-22-2772 (地域医療連携室)
U R L : <https://ibusuki.hosp.go.jp>
印 刷：株式会社陽文社